

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイのラーバが見られました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ

ラーバは小湊沖で1.3個体/m³、川内沖で1.6個体/m³見られました。

(3) マボヤ

ラーバは久栗坂沖で5.6個体/m³、川内沖で2.3個体/m³、卵は久栗坂沖で1.7個/m³、小湊沖で7.5個/m³、野辺地沖で2.3個/m³見られました(図3)。

(4) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)、アミクサ(海藻、通称クサ)

クラゲ、小枝は見られていません。

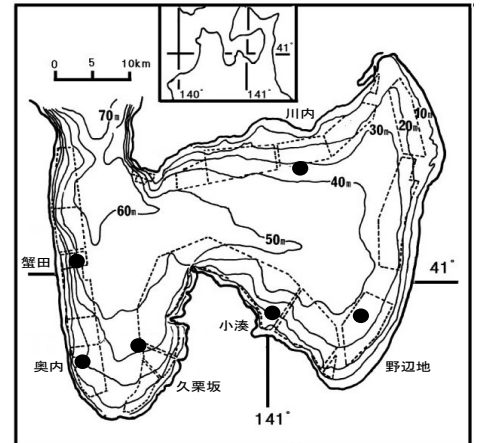


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは、水温が20℃以下に低下すると産卵し、例年10~12月がラーバの出現ピークになっています。現在、陸奥湾の中層水温が9~12℃台まで低下したにもかかわらず、ラーバが見られないことから、分散済みの籠への今秋における付着は少ないと考えられます。

キヌマトイガイのラーバの出現が昨年より早いことから、早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われます。

マボヤのラーバと卵が増加しているため、付着が進んでいると考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類の付着は年明けになるものと思われます。

稚貝のパールネット内に今秋生まれの小さなウミセミが多数見られます。ウミセミは8℃以上の水温で付着生物を活発に食べるので、冬季に水温が高ければ来春の付着生物量は少ない可能性があります。

3 ユウレイボヤの付着予測

西湾(久栗坂)と東湾(小湊、野辺地、川内)における10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数、12月~翌年3月までの青森ブイ(西湾)または東湾ブイ(東湾)の水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係調べたところ、平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば付着量が少ないことが分かりました(図4)。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃、東湾ブイの平年値は5.6℃です。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ		マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
		サハラボヤ	ラーバ	卵	ラーバ				
久栗坂沖	R1.12.9	0.0	6.1	5.6	1.7	0.0	15.0	0.0	0.0
小湊沖	R1.12.2	0.0	0.0	0.0	7.5	1.3	2.5	0.0	0.0
野辺地沖	R1.12.9	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.8	0.0	0.0
川内沖	R1.12.9	0.0	0.0	2.3	0.0	1.6	19.5	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

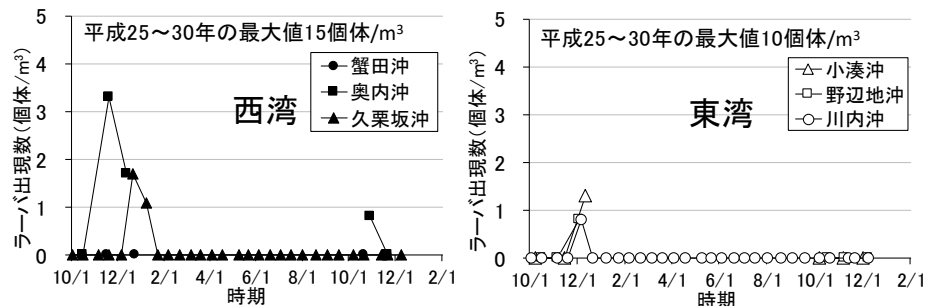


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成30年10月~令和元年12月)

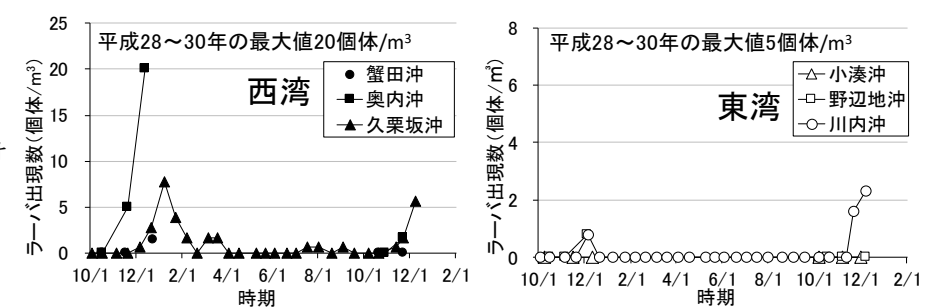


図3 マボヤラーバ出現数の推移(平成30年10月~令和元年12月)

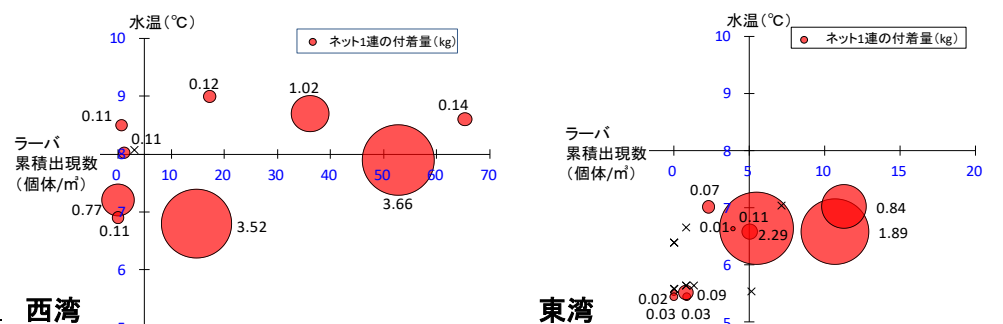


図4 平成16~30年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)

